

# 生徒の多面的理解を目的とした学年レベルの相互 コンサルテーション

—非表出だが不登校傾向のある生徒を主な対象として—

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 生徒指導・教育相談系

本研究の目的は、非表出だが不登校傾向のある中学校生徒の早期発見と対応の組織的システムとして、生徒の多面的な理解に向けた学年レベルの相互コンサルテーションを構築することにある。4月から12月に月1回程度実施した。相互コンサルテーションでは、生徒の多面的理解のために、生徒対象の不登校傾向尺度、仲間集団尺度、hyperQ-Uなどの結果をフィードバックし、教師間での生徒の情報交換や意見交換をおこなった。また、生徒対象の指導行動尺度の評定結果を教師にフィードバックして、自身の指導行動の振り返りを求めた。その結果、相互コンサルテーションにおける教師の発言や振り返りからは、早期発見・多面的理解のために、上記の尺度の有効性が認められた。また、教師の指導行動尺度のフィードバックにより、教師の自己省察と指導行動の変容がみられた。ただし、対象生徒個人への対応策を検討するためのシステムにはならず、個別への対応システムを検討する必要がある。